

第1回 保育のお仕事ステップアップ講座

日時：令和8年7月1日（水） 10時00分～15時00分

会場：とちぎ福祉プラザ 福祉研修室

「造形活動で見える子どもの育ちをどう捉えるか ～子どもの見取りと実践のヒント～」

講師 こどもデザイン研究所 所長 絵本作家 矢生 秀仁 氏

講座の内容

- 子どもの発達段階と造形活動
- 造形活動のポイントと保育士の関わり
- 造形活動から遊びへの展開

『造形活動で見える子どもの育ちをどう捉えるか』をテーマに子どもの発達と表現活動の段階について理解を深め、造形活動における実践のポイントや保育者の関わり方について実技を交えながら学びました。

講義では、保育者が作品の出来栄を評価したり、「上手にできたね」といった言葉かけを行ったりすることが、子どもに「上手・下手」という意識を生じさせる可能性があることについて、また、評価されることや失敗することへの不安が、挑戦する意欲や主体的な表現活動を妨げる要因となる場合があることを学びました。そのため、保育者には作品の完成度を評価するのではなく、子どもの思いや発想、表現の過程に寄り添い、その姿を受け止めながら共感する関わりが求められることを共有しました。さらに、完成度の高い見本をあえて提示しないことで、子どもが安心して自由な発想を広げられる環境づくりの重要性についても理解を深めました。

実技では、さまざまな形の組み合わせや見立てを活用した活動を行いました。自分たちが作ったものを遊びへと発展させる体験を通して、造形活動が子どもの想像力や表現力を育むことを実感しました。



《参加者の声》

- ・表現活動の発達段階はとても勉強になりました。ハサミで切るなどの行為自体を楽しんでいるということをもっと大切にしようと思いました。
- ・月齢・発達によって『どう楽しめるのか？』ということ意識することで、子どもたちがより造形遊びを楽しめるようにしていけることがわかりました。
- ・実践に活かせる内容ばかりで学びが深まりました。実際にやってみて、感じ方等、イメージと異なることもあり、やってみて良かったと感じました。
- ・“下手でも大丈夫”が、安心をあたえているという所にとっても感動しました。
- ・普段の生活の中で簡単に取り入れられる造形活動を学ぶことができました。“造形活動はこうあるべき”という思いのハードルが下がりました。
- ・難しいと思っていた造形活動が身近なものになりました。実際に作って遊びに発展させるのもイメージが沸いて楽しかったです。